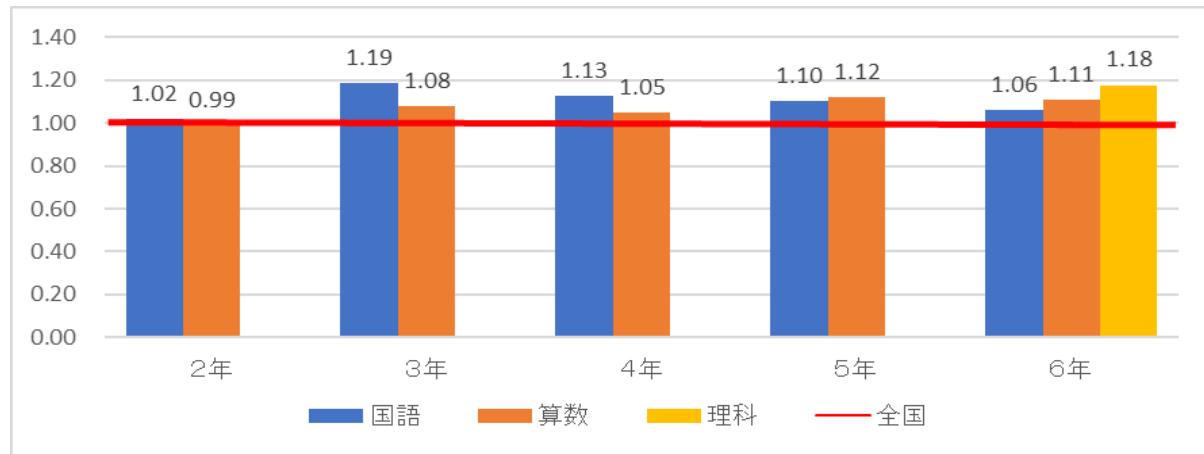


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第十中学校区 宇谷小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は寝屋川市学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習 到達度調査	国語	全学年、全国平均正答率を上回る結果であった。結果分析等から、「話すこと・聞くこと」について課題が見られる傾向のため、児童が聞き手を意識した話し方や話す場面の設定、ペアやグループ活動の取組の更なる充実を図っていく。
	算数	「データの活用」領域については、全学年全国平均正答率を上回る結果であった。「図形」領域について、他領域と比較すると課題が見られる傾向のため、授業を通して基礎基本的な算数用具の使用方法の定着や図形の性質を見つけ、説明する場面を設定し、図形に対して筋道を立てて考える力の育成を図っていく。
全国学力 学習状況調査	国語	全内容において全国平均を上回っているが、「読むこと」について課題が見られる傾向である。要旨の把握や話題と発言を関係付ける学習活動を意識した指導を行っていく。
	算数	全領域で全国平均正答率は上回っているが、他領域と比較すると、「変化と関係」領域に課題が見られる。授業の中で、具体物や変化する事象を通して数量の関係性を図示する活動を取り入れいく。
	理科	全領域で全国平均を上回っている。引き続き、児童が興味・関心を持ち観察実験などを行い、得られた結果から考察し表現できる指導を行っていく。
	質問紙	「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）の質問に、「全くしない」と回答した児童の割合が高い傾向にあることから、読書に親しむ取組をより一層進めていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区研修や授業交流と共に小中一貫教科部会において、学力調査の結果分析を共有し、児童生徒の主体的な学びを実現する授業づくりを推進している。学びの土台となるべく、PBIS（ポジティブ行動支援）、ディベート教育や道徳教育に注力し、論理的思考力、心の豊かさ等をはじめとする非認知能力の育成を図り、確かな学力を身に付けた子どもの育成をめざしている。

【学校】

論理的思考力を育むため、道徳やディベート授業等の教育活動全体を通して、考える力の育成を推進していくと共に、今後も児童の自己肯定感を醸成する取組を継続して行い、自らの力で未来を切り拓く児童の育成を図っていく。また、宿題等を活用し継続したプリント学習による練習や自主学習の推進、放課後学習会により基礎・基本の確実な定着に向けた取組を一層図っていく。